

おかしいと思ふんです。場合によらずやういふこともあり得るんだと。やういふ形のものであつてはならないと私は思つております。上野議員も指摘したとおりです。

三月三十一日まで必ず完工すると、完成するんだといふやうな、ひとつ決意の表明がないと、やういふ四号を出して、いや、これは事によるとやうなうんぬんだといふ可能性もあることをあらかじめ承知しておいてくれと。やういふ提案は僕は納得いかない。ですから、如力してですよ。結果としてですよ。やういふことになるという人々やそれなりの理由が、この次の段階におつてお話しされる人々やいかもしれないけれど、しつぱなの提案理由の中にやういふことを言うといふのは納得がいけないので、この点についてひとついま一回明確な答弁をお願いしたいと思ひます。

○総務部長（浅見裕康君）

確かに御指摘のとおり当然現在時点です算をお願ひしてゐるわけでございしますから私どもの務めとしても当然国有農地の買収受け等の手続を最大限の努力をして三月三十一日年度内に完成するといふことをございまして、確かに先を急いでその後の想定まで答弁の中に申し上げたことについては深く反省を申し上げます。

当然、今のやうな形で最大限の努力をしてやういふたことがないやうにひとつこれから

も一王懸命やうていふたいと思ひますので、御了承をひとつお願いいたします。（いはば了解と承る旨あり）

○二十三番（田村市郎君）

本予算の経緯については私自身としては了了とするものであります。この説明等においてこれは何回も全協等でも原ヶ谷戸の地区で公園を予定してあったのが買収できなかったといふことで振りがえをしたんだといふことで、おかげですべて皆さんの理事者の努力によつて振りがえができた。これはすこしに敬意を表するものであります。どうしても原ヶ谷戸地区といふ所も非常にいい所で公園ができるというところを地域の方は非常に期待をしてあった。ところが、地主さんの関係でどうしてもだめだ。

しかし、担当部長として今後交渉して、もう最初からだめになつてゐるのか、将来幾らか見込みがあるのか、今のところだめでも将来はあるのか、このやうな点を、住民が非常に期待してゐるだけに、まだ脈はあるんだとか、全然だめだとなれば他の所を見つかるんだと。地域的にもどうしても熊川の方も二カ所、また平年も場合によると今建設部長からの話、いま一カ所公園ができる。これは結構でございします。しかし、それもうですけれども、原ヶ谷戸の方も期待してゐるからどうしても欲し

い場所でありますので、この点についての交渉経過、はっきりいって見込みがあるとか、もう全然ないとか、そういったことを担当部長に御答弁を願いたい。

○総務部長（浅見裕康君） 使用に付することは当然用地交渉ということになりますので、私の方から御答弁申し上げます。

御案内のとおり事情を原谷戸緑地の整備事業については見送らざるを得なかったということをごましまして、まことに申しわけない次第でございますが、やはり地主さんの事情、そういったものを勘案しないと買収処理というのはいけませんもので、やむを得ずこのような結果に相なったわけでございます。

それで、これららの問題といたしましてどうするかということにつきましては、一応現在無償で借り上げておきまして本年度じゃうに建設部からお聞きしたところによりますと十月中旬には工事発注をいたしまして、仮の緑地整備事業、これは単費で行くわけでございますして防衛補助事業として実施するような規模にはいさませんけど、一応供用開始ができるような程度の整備を行って一応暫定的に開放いたすというふうな考え方でございします。

将来的に当該地の買収でございますけど、これは現在地主さんというふうにお話し

しまして、例えばの例で相続税というふうな問題になった場合ですね。そういったときに一応中に全面的に協力して買収にたすというふうな趣旨の一応情報を得た上においての借地をしておりますので、そこに契約書上そういったものをついて現在借りてあるというふうな状況でございますして、見通しとしては福生市以外には売らないというふうな一応約定になっておりますので、その辺はそういった時期が来ましたら当然福生市で買収できるといふような判断の上になつております。以上でございます。

○二十三番（田村市郎君） 聞くしますと補助金はつかないけれど、借りとして一時公園に使えろと、こういうことの説明のようですけど、これは本年度中に公園整備を整えろと、これは結構でございます。できましたらそれでいい、地主さんの関係の問題は一つあると思うんですが、今度は正式につたというところになると、果たして大体使っちゃったものを今度まで補助金かもう使用しちゃってできちゃったときには補助金は来るか、来ないかという、その点もちょっと一たんひとつ御回答願いたい。

○総務部長（浅見裕康君） 補助対象になるといふことについては一般的に申し上げますと、現在の土地が一般に開放されるような状況になつていくかどうか、あるいは、その権利が公共団体、つまりめい言えは福生市でございしますけど、福生市がそういう所有権的にも

のを確保しているかどうかというような判断に基づいて補助対象になるかどうかという国の判断が起ると思えます。もう一つの意味で一応施設は先ほどどうと触れましたように一般的にいやる公園整備事業、そこまでのレベルに達せられるような形でやはりある意味では若干通常の最低限の管理が必要であろうというような程度の工事を施した中で開放するということは今まであります。

したがって、今後補助対象事業として要望した際には当然のこととして従来もそういうケースがござります。補助対象になるという確信は持っております。国の、何というか受け入れ方が変わったら別でござります。現在時点の概算要求をいたしまして、それでヒヤリングで採択されるというような手法が全く変わってないと思えば当然のこととして補助対象になるという考え方でござります。以上です。

○二十三番(田村中郎君) 結構、御答弁でござりますので、担当部長が確信を持って補助対象になるということであるならば、この結構でありますので、私の質問を終わらせていただきます。

○六番(齋藤 巽君) 二点についてどうとお尋ねしておきます。

熊川北公園の用地でござりますが、この場所においては私の一般質問にもありましたと

おり熊川分水に幾らか関連するかと思っていますので、この熊川分水の用地買収について、そして、またその構造というか、公園の内容についてですが、それともう一点、奥多摩街道の拡幅が予定されておりますので、この奥多摩街道に面した用地についても私有地という買収はどのようなか。また、この点今後買収まで公園として使うのか。その二点についてお尋ねします。

○総務部長(浅見裕康君) お答え申し上げます。

まず第一点の(熊川分水関係につきましては、一応今後の熊川分水の管理その他の推移もござりますので一応買収地積から除いております。)

あと前面道路の、いわゆる道路に面した方でござりますけれども、これもやはり先年消防の関係の分団の車庫をつくったというお話の方でござりますけれども、道路の拡幅が実施されるまでは一応無償で借り上げておいたままにして、そこで公園として一応開放するということな考え方でござります。以上です。

○六番(齋藤 巽君) わかりました。そうしますと熊川分水の境につきましては防護柵

等を講じて安全な公園にしていられるんだと思っておりますので、その点につきまして前も熊川分水については子供等について犠牲者も出っておりますので、特に公園等につきましては幼

児童が遊ぶんでございますので熊川分水と境につきましては防護さく等でも完全なるものを願ひしたいと思ひますので要望してまいります。

○議長(森田治男君) 要望でございますね、ほかにございますか。なければ以上で質疑を終つておろす。

これより議事録第七十九号について採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(森田治男君) 御異議なしと認めます。よつて議事録第七十九号は、原案のとおり可決されました。

○議長(森田治男君) 日程第十一 議事録第八十号 昭和五十九年度福生市一般会計決算認定についてを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

(収入役 高水 求君登壇)

○収入役(高水 求君)

御指名がござりましたので、議事録第八十号 昭和五十九年度福生市一般会計歳入歳出決算について御説明申し上げたいと思ひます。

この会期末に際しまして、このような重要な議案を御提案いたしましたので大変御迷惑をおかけいたしたう申しわけないと思ひますが、諸般の事情を御検査くださるまいして、よろしく御了承賜りたいと存じます。

一般会計の決算を説明する前に普通会計に属する決算から見た昭和五十九年度の当市の財政状況について概要を一言触れてみたいと存じます。

まず当該地方公共団体の財政の運営が果たして健全であるのかどうかという点とは、その団体の財政収支に端的に表現されてまいります。現金主義会計の建前といたしましては形式的な収支にあつては表示されてまいります。それは当市の形式的な収支はどうかと申しますと、五十九年度の決算におきましては一億九千六百余万円の黒字となっております。また実質収支あるいは実質単年度の収支とも前年度に比べまして若干減少はしてございましてありますけれども、黒字となっております。また経常経費につきましては歳出総額の五七%を占めまして、前年に比べまして六・九%ほどの増加を示してありますけれども、しかし、財政構造の弾力性を判定す

る最も一般的な手法であり、この経常収支比率につきましては前年度より一・五%ほど増加したとは申しながら、四・九%となっておりまして、二十六市の中におきまして、大変成績のよいと申します。低位に陥っております。

また自主財源と依存財源の比率は五十一対四十九となっておりまして、また市税の構成比は三八・二%であります。公債費の比率は一・三%で財政力指数は〇・七二八で二十六市の中を見ますと下から三番目というよりは、余り成績がよくございせんけれども、前年度よりは〇・〇二七上昇しておりますけれども、この財政力につきましては大変脆弱であるというところでございしますが、これは、もう一朝一夕に改善、向上するということはないか、難しい問題であろうと思います。また基金への積立額は前年度に比べまして二億九千万円ほど減少しておりますけれども、全体では八億四千万余の積立を行っております。

このような状況から総合的に見まして、昭和五十九年度の当市の財政はおおむね健全に推移してきたのではないかと、いふように見られるのではないかと思います。

御案内のとおり国の行革絡みでの影響を受け、大変厳しい財政環境でありましたけれども、市長が施政方針でも述べられました活力ある市民のまちづくりを目指して

の施策が五十九年度におきましても着実に実施されてきたと、いふことは、昭和五十九年度の行財政が比較的良好的な状態で終始したと、いふことであらうと思います。これもひとえに、議員先生方の御協力はもちろんのことでございしますが、関係各位とあるいは市民の皆さんからの心からの気遣い、御理解と御協力のたまものと深く感謝申し上げて、次第でございします。大変御協力をいただき、ありがとうございます。

それでは一般会計の決算の概要について御説明したいと存じますので、決算書の一ページ、二ページの総括表を御覧になっていただきたいと思います。予算現額は百三十億三千三百十三万六千円に、おまして、歳入決算額は百三十億九千七百四十九万五千四百六十六円、前年に比べますと三億四千九百四十二万七千五百七十三円、

二・七%の前年対比では伸びを示しておりますが、この中でふえたものといましては、市税それから自動車取得税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、交通安全対策特別交付金、使用料及び手数料、都の支出金、財産収入、繰入金、繰越金、諸収入でございしますが、反対に前年に比べて減ったものといましては、地方譲与税、地方交付税あるいは分担金及び負担金、国庫支出金、寄附金、それから

市債などが減っております。

また歳出の決算額は百二十九億八千三百三十一円、執行率にいたしますと九八・九八％でございます。前年に比べまして三億四千四百一十一万三千八百二十六円、二・七％のそれぞれ増加を示しております。この中で前年に比べ大幅にふえたものとして、民生費、教育費、総務費等でございますが、反対に大幅に減ったと思われるものは工本費あるいは公債費、諸支出金等でございます。

歳入歳出差し引き残額は翌年度繰越額でございますけれども一億九千六百六十六万二千百三十五円、前年に比べまして八百一十三万三千七百四十七円の増加と相なっております。これは、まず歳入から御説明申し上げたいと思っておりますので五、六ページをお開きいただきたいと思います。内容につきましては事項別明細書に詳しく書かれておりますので、それを御参照していただくことといたしまして、ここでは前年度灯比等を重点的に御説明申し上げます。なお、これから金額を申し上げます節には大きな単位でやらせていただきますと思っておりますので、あらかじめ御了承賜りたいと思っております。

まず一の市税でございますが、これは前年に比べますと二億六千六百六十四万円ほどの二・二％ほど増え、前年に比べて伸びておりますが、伸びておりますのはやはり市民税と

固定資産税が二億一千百万円ほどの中で伸びております。その他都市計画税、諸税を合算しまして五千五百五十七万円ほどの増加となっております。徴収率は九五・七％で、残念ながら前年度の徴収率より〇・五％ほど下がっております。それから不納欠損処分が三に書かれておりますけれども、これはいずれも時効完成分で、件数分にいたしましては九百二十八件というふうになっております。

次に二の地方譲与税でございますが、これは三百六十五万円ほど前年に比べて減っておりますが、これは全国的レベルでは三・八％から四・二％程度の減額になっているというふうに聞かされております。

リテール。

それから三の自動車取得税交付金については四百九十五万円ほど前年よりふえております。それから四の国有提供施設等所在市町村助成交付金については百万円の増加。それから五の地方交付税につきましては一億六千二百二十二万円ほどの増加でございますけれども、普通交付金につきましては九千五百九十一万円ほど、それから特別交付金につきましては一千三十三万円ほどふえております。

六の交通安全対策特別交付金につきましては百二十八万円ほどの増加。

それからその分担保金及び負担金につきましては七千八百六十九万円ほどの前年対比で減収となりておりますけれども、一の分担保金につきましては前年と同額でございますけれども、二の負担金につきましては七千八百六十九万円ほど減っておりますが、これは御案内のとおり西住宅地区周辺排水整備事業費の減額に伴うものでござります。それから八の使用料及び手数料につきましては三百七十一万円ほどの増加でございますが、使用料につきましては道路の占用料とか駅前駐車場施設の使用料あるいは市営住宅、あるいは体育施設、そういったものの使用料の増加が主でございます。それから二の手数料は百四十三万円ほど減額、前年対比で減っておりますけれども、これは、じんかい処理費とし尿処理の手数料の若干の減でございます。

次にセーページからページにござります。九の国庫支出金でございますが、国庫支出金にござりますは一億二千四百六十一万円ほど前年対比で五・二八％ほど減っておりますが、国庫負担金については八千七百八十一万円ほどの増加をしておりますけれども、二の国庫補助金につきましては二億二千二百七十三万円ほど減額になっておりますが、これはやはり負担金と同様に西住宅地区周辺の排水路整備事業の事業費の減に伴うものでござります。三の委託金については二十九万円ほどの微増にとどまっております。

次に十の都支出金でございますが、都の支出金につきましては一億七千六百七十三万円ほどの増加をしておりますが、一の都の負担金にあきまして一千五百七十九万円ほど、それから二の都の補助金につきましては一億七千八百九十六万円ほど増加をしておりますが、これは総務費の補助金にあきまして調整交付金あるいは振興交付金等にあき九千八百万円ほどの増加、それから教育費の補助金につきましてはスポーツレクリエーション事業あるいはコミュニティー施設建設事業費等の増加で、都の補助金が前年に比べてふえております。三の委託金は一千七百九十四万円ほど減っておりますが、五十八年度にあきましては衆議院あるいは参議院選挙費があった関係でふえておりますが、当該年度はさういふものがありませんでしたので減っております。

十一の財産収入は四千五百万円ほど増加しておりますが、一の財産運用収入につきましては三千二百三十一万円ほどの増加、これは利子収入が主でございます。それから二の財産売り払い収入は一千二百七十三万円ほど増加しておりますが、これは工地上売り払い収入が主たるものであります。

十二の寄附金については一億九千十五万円ほどの減となっております。これは宅地開発指導要綱に基づく一般寄附金のものでござります。

それから十三の繰入金につきましては二億八千二百六十九万円ほど増加しておりますが、これは一の特別会計繰入金にありましては区画整理特別会計あるいは老人医療特別会計からの繰入金との増加と、二の基金からの繰入金で二億六千四百三十八万円ほどふえておりますが、これは都市施設整備基金で一億四千万円ほどふえております。これは下水道会計の繰出金とあるいは少年野球場等の財源の充当してある分の増加した分であります。それから八小建設基金で一億九千五百万円ほどふえておりますけれども、これは八小用地の買収に充当してある財源の増加が主たるものでございます。

次に十四の繰越金が六千四百九十二万円ほどの増加。

それから十五の諸収入につきましては五千五百九十七万円の増加でございますが、一項から五項まで全般的に増加しておりますけれども、中でも二の市預金利息が一千百万円ほど、それから雑入が二千八百五十四万円の増加、これは国民年金印紙売り払い代金の増加が主たるものでございます。

それから十六の市債につきましては五千万円ほどの対前年比減でございますが、土木債にありましては一億四千万円ほどふえておりますが、消防債と教育債において

それぞれ減っております。そういうふうな関係で相殺しますと先ほど申し上げた程度が減ってくるというところでございます。

以上で歳入の概要説明を終ります。次に歳出の説明に移りたいと思っておりますので九ページから一〇ページをお開きいただきたいと思います。

一の議会費にありましては前年対比で九百四十二万円ほどふえておりますが、これは議会運営に要する経費とそれから自動車の管理等に要する経費、自動車の購入がございましたので、そういうものがふえた主たる原因でございまして。

それから二の総務費が七千四百四十五万円ほど増加しておりますが、これは一の総務管理費にありまして八千八百万円ほど増加しておりますが、これは一般管理費のうち人件費それから自動車の管理等に要する経費、バスとか自動車の購入をしておりますので、そういう関係で総務管理費がふえております。それから二の徴税費、三の戸籍住民基本台帳費等については、いずれも人件費相当額が増加しております。四の選挙費は二千四百万円ほど減額となっておりますが、これも先ほど歳入のところで説明いたしましたけれども、衆議院、参議院、都の知事の選挙等のなかった五十九年度、前年五十八年度はあったというふうなことで減っております。それから五の統計調査

費と六の監査委員費については若干の減となっております。

それから三の民生費につきましては四億六千三百十九万円ほど、前年対比で一八％強増加しておりますが、一の社会福祉費におきましては一億九千七十万円ほどふえておりますが、これは福祉会館管理費それから老人福祉費、国民年金事務費、それから社会福祉総務費などで一億七千八百万円ほどふえておりますので、そういうたものが主たる原因でございます。それから二の児童福祉費におきましては一億六千九百四十六万円ほど増加しておりますが、これは福祉施設費ですみれ保育園の除濕工事などとしております。それから児童措置費でも二千百万円ほどふえておりますのが主たるものであります。それから三の生活保護費におきましては一億二百九十四万円ほど増加となっております。四の災害救助費におきましては四万円の微増でございます。それから四の衛生費におきましては二千四百万円ほど増加しておりますが、これは一の保健衛生費におきましては六百三十五万円ほど、それから二の清掃費において一千七百七十二万円ほど、これは清掃総務費におきましては一千六百万円ほど減っておりますけれども、し尿処理費において三千五百万円ほど増加しております。そういうた関係で清掃費は全体で元ほど申し上げたような増加を示しております。

五の労働費におきましては二十八万一千円の微増でございますが、一の失業対策費におきましてはふえてあるものであります。二の労働諸費においては前年と同額でございます。

次に六の農林水産業費におきましては百七十三万円ほどの減額でございますが、これは年度途中で人事異動等がありまして職員が一人減っております関係とそれから緑化推進費が百万円ほど減っておりますというようことで、総体的にはやはり減額ということになっております。

それから七の商工費におきましては一千五百十二万円ほどの増加でございますが、これは商工振興費の一千三百万円ほどの増加が主たるものでございます。

それから八の土木費では一億八千四百八十四万円ほどの前年対比で六・六％ほどの減になっておりますけれども、これは一の道路河川橋りょう費におきましては一億五千二百二十三万円ほどの増加を示しております。これは道路新設改良費とか、あるいは私道整備費などに要する経費の増加が主たるものでございますけれども、二の都市計画費におきましては三億三千六百四十二万円ほどの減額となっておりますが、これは公園費におきましては三億二千七百万円ほどふえておりますが、緑地整備費におきましては二億二千百

万円ほど減っておりますが、これは前年度におきましては飯沼加美緑地の新設工事が
ありました関係でそのようになつております。それからもう一つは西住宅地区周辺排
水路整備事業費の関係が四億三千二百万円ほどの減となつてゐる関係で、郡市
計画費におつては先ほど申し上げたような数字の減となつております。それから三の住宅
費におきまして三十四万三千円の増加でございます。

それから次に一から二ページをお開きいただきますが、九の消防費でござ
います。消防費につきましては六百八十七万円ほどの増加でございますが、これは常備
消防費と非常備消防費におきましては増加しておりますけれども、消防施設費
と災害対策費につきましてはそれぞれ六千八百万円、あるいは災害対策費が一千四百
万円ほど減つてゐる関係で伸びは六百八十七万一千円というふうな事になつております。

それから十の教育費でございますが、教育費は三億五千二百四十万円ほどの増加
でございますが、一の教育総務費におきましては七百八十九万円ほどふえておりますが、これは
人件費が主たるものでございます。次に二の小学校費におきましては一億七千九百十一
万円ほどふえておりますが、これは中学校整備費で、要するに飯沼八小用地の購入
代金とかあるいはそのほか五小の講堂にあるいは二小、あるいは六小の除湿工事などの

増加が中学校整備費からふえた主たるものでございますが、三の中学校費におきまし
ては八百五十八万円ほどの対前年度に比べて減額となつておりますが、これは中学校
教員費の減が主でございますが、前年度は二中の第七期の増築工事があつた
ような関係でふえておつたわけでございます。

それから四の給食費は一千十四万円ほど増加ですが、これも主として人件費の
増加でございます。五の社会教育費は二千五百五十三万円ほどの増加でございます
が、これは文化財の保護費の関係で三千三百万円ほど、これは森田家からの次男
料の購入とか図書館の中の収蔵庫の改良工事等が行われたものでふえております。
それから学習指導員用施設の建設費が一億四千八百万円ほどふえておりますけれども、
屋外運動場の建設費につきましては一億七千四百万円ほど前年に比べて減つてお
ります。それから六の相殺しますと先ほど申し上げた額が社会教育費の
方の増となつております。

六の保健体育費は一億三千八百二十九万円ほどの増加でございますが、これは体
育施設費の増加が主なものでございまして、具体的に中は中宮アルの新増設、そ
れから飯沼熊川野球場とか、それから福東あるいは武蔵野台のテニス場の休養地